

市場予測・将来展望シリーズ ～ Condenser 編

2017年版 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望

- スマート・デバイス ～ コンデンサ市場実態/予測・関連技術/部材・応用製品 -

Sample

株式会社 日本エコノミックセンター

編集 スマート・デバイスグループ

Copyright JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD

はじめに (サンプル)

コンデンサの需要が伸びています。自動車、スマートフォン、産業・エネルギーの3大市場のうち、自動車向けがADASなど機能強化による電装化率の高まりからコンデンサの搭載点数が増加。環境、省エネなどの視点で電気自動車(EV)やハイブリッドカー(HEV)などの普及もパワートレイン系コンデンサの市場を拡大します。スマホ向けは成長が鈍化していますが、前年比で約5%の生産台数の伸びが期待され、超小型コンデンサの生産規模が拡大しています。

産業・エネルギー向けは中国における景気減速などを背景に設備投資の抑制から低調ですが、中長期的には高性能コンデンサの需要が増加する見通しです。JEITAのグローバル出荷統計によると、コンデンサは2013年以降、出荷額が増えています。11年の東日本大震災、タイの大洪水などの影響で、12年はマイナス成長でしたが、その後は自動車やスマホが市場をけん引。産業・エネルギー向けも市場規模を拡大してきました。

2015年度のグローバル出荷額は前年度比2%増の9,066億円を確保。16年度も増加する見通しです。コンデンサ市場をけん引しているのは自動車分野です。ガソリン価格が安値で推移し北米で大型車などの自動車販売が好調です。また、欧州も域内での需要も上向きに転じてします。さらには本格的な自動運転に向けて、ADASなどの安全系を中心とした新しい機能が拡充。コンデンサの搭載点数を増やしています。新しいモノづくりを取り入れる動きは、新しいコンデンサ市場を形成していきます。

本レポートの第Ⅰ章では、コンデンサの世界及び国内市場の動向と展望について、調査および分析を行っています。第Ⅱ章では、コンデンサ別に分類して、各コンデンサ市場や用途別市場の動向や予測などを載せています。第Ⅲ章では、主要なコンデンサ応用市場について動向と市場予測などを載せています。第Ⅳ章では、コンデンサの関連部材について市場推移予測や動向などを掲載しています。第Ⅴ章では、国内外のコンデンサメーカー、の出荷数量・金額の推移予測や事業・生産・販売動向などを掲載しています。

弊社は本年、創立50周年を向かえる市場調査・マーケティング会社です。本レポートは、専門の編集スタッフにより調査・編纂されております。将来展望シリーズは、新規参入を検討してされている企業様を含めた事業計画の立案、予備調査、事業計画書の作成・展開など幅広く活用されています。

本書が、御社の事業戦略の立案及び展開される際にご活用下されれば幸いに存じ上げます。

平成28年10月
株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部
スマート・デバイスグループ

☆☆☆ 目 次 ☆☆☆

2017 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望 ～ 将来展望・シリーズ

序章 コンデンサ注目市場の動向と将来

1. コンデンサ注目市場の動向と展望	1
(1) コンデンサの概要と用途	1
(2) コンデンサの種類と特性	2
(3) 次世代環境車市場の動向と将来	3
(4) ウェラブル機器市場の動向と将来	5
(5) ヘルスケア市場の動向と将来	7
(6) 民生用ドローン市場の動向と将来	8

第 I 章 コンデンサ市場の動向と展望

1. コンデンサ世界市場の現状と展望	9
(1) コンデンサ世界市場規模と動向	9
(2) コンデンサ市場業界図（世界・国内）	10
① コンデンサ世界市場推移・予測（2007～20年度）	11
② コンデンサ別世界市場推移・予測（数量・金額）	13
③ セラミックコンデンサ世界市場推移予測／シェア	15
④ 積層セラミックコンデンサ世界市場推移予測／シェア	17
⑤ アルミ電解コンデンサ世界市場推移予測／シェア	19
⑥ タンタル電解コンデンサ世界市場推移予測／シェア	21
⑦ フィルムコンデンサ世界市場推移予測／シェア	23
⑧ 電気二重層コンデンサ世界市場推移予測／シェア	25
2. コンデンサ国内市場の現状と展望	27
(1) コンデンサ国内市場規模と動向	27
(2) コンデンサ市場の最新動向	28
① コンデンサ市場推移・予測（数量・2007～20年度）	29
② コンデンサ市場推移・予測（金額・2007～20年度）	30
(3) コンデンサメーカー別市場動向	31
① コンデンサ日系メーカーシェア（数量・2015～16年度）	32
② コンデンサ日系メーカーシェア（金額・2015～16年度）	33
(4) コンデンサ種類別市場概況と動向	34
（アルミ電解／積層セラミック（MLCC）／タンタル電解／導電性高分子／フィルム）	
① コンデンサ構成比率（数量・2015～16年度）	36
② コンデンサ構成比率（金額・2015～16年度）	36
3. 弊社実態調査集計資料	38
(1) 主要メーカー別販売数量・金額一覧（表・2015～17年度）	38

①主要メーカー別販売数量推移予測（2007～17年度）	39
②主要メーカー別販売金額推移予測（2007～17年度）	40
(2)主要メーカーコンデンサ別販売数量・金額一覧（2013～17年度）	41
(3)コンデンサタイプ別弊社集計・分析結果	46
①セラミックコンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	46
・セラミックコンデンサメーカーシェア	47
②積層セラミックコンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	48
・積層セラミックコンデンサメーカーシェア	49
③アルミ電解コンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	50
・アルミ電解コンデンサメーカーシェア	51
④タンタル電解コンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	52
・タンタル電解コンデンサメーカーシェア	53
⑤導電性高分子電解コンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	54
・導電性高分子電解コンデンサメーカーシェア	55
⑥フィルムコンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	56
・フィルムコンデンサメーカーシェア	57
⑦金属化有機フィルムコンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	58
・金属化有機フィルムコンデンサメーカーシェア	59
⑧電気二重層コンデンサ販売数量・金額推移予測（2004～17年度）	60
・電気二重層コンデンサメーカーシェア	61
(4)コンデンサタイプ別販売数量・金額推移予測	62
①コンデンサタイプ別販売数量推移予測（2007～2017年度）	62
②コンデンサタイプ別販売金額推移予測（2007～2017年度）	63
4.コンデンサ関連国内統計資料	64
(1)コンデンサ国内生産量規模（表・2012～2015年）	64
(2)コンデンサ別国内生産量推移表（2001～2015年）	65
（アルミ電解／タンタル電解／セラミック／有機フィルム／金属化有機フィルム 各コンデンサ／コンデンサタイプ別生産量・高 推移表）	
(3)コンデンサ輸出・輸入量規模（表・2012～15年）	72
(4)コンデンサ別輸出・輸入量推移表（2012～15年）	73
（アルミ電解／タンタル電解／セラミック／紙&プラスチック／その他固定式／可変式 各コンデンサ／コンデンサ別輸出単価推移表／コンデンサ別輸入単価推移表）	

第Ⅱ章 コンデンサ別の市場動向と展望

1. 積層セラミックコンデンサの動向と展望	87
(1)積層セラミックコンデンサの大容量化と用途拡大	87
(2)積層セラミックコンデンサの概要と動向	88
(3)サイズ別世界市場推移予測（2008～20年度）／シェア推移	89
(4)用途別世界市場推移予測／構成比率推移（2008～20年度）	91
(5)積層セラミックコンデンサの動的モデルと進化	92

(6) 様々な MLCC のニーズに対応した新製品	93
(7) 車載用高信頼性 MLCC の技術動向	94
2. 電解コンデンサの動向と展望	95
(1) 電解コンデンサの概要と動向	95
(2) 電解コンデンサタイプ別世界市場推移予測（～2020 年度）／シェア	97
(3) 電解コンデンサ用途別世界市場推移予測／構成比率推移（～2020 年度）	99
(4) 導電性高分子コンデンサタイプ市場推移予測（～2020 年度）／シェア	100
(5) 導電性高分子アルミ電解コンデンサの低背化技術	102
(6) 自動車電装用アルミ電解コンデンサの技術動向	103
3. 電気二重層コンデンサの動向と展望	104
(1) 電気二重層コンデンサの概要と動向	104
(2) 電気二重層コンデンサの技術動向	105
(3) 電気二重層コンデンサタイプ別世界市場推移予測（～2020 年度）／シェア	106
(4) 電気二重層コンデンサ用途別世界市場推移予測／構成比率推移（～2020 年度）	107
4. タンタルコンデンサの動向と展望	108
(1) タンタルコンデンサの概要と技術動向	108
(2) タンタルコンデンサ用途別世界市場推移予測／構成比率推移（～2020 年度）	109
5. フィルムコンデンサの動向と展望	110
(1) フィルムコンデンサの概要と動向	110
(2) フィルムコンデンサの技術動向	111
(3) フィルムコンデンサ用途別世界市場推移予測／構成比率推移（～2020 年度）	112

第三章 コンデンサ関連市場の動向と展望

1. コンデンサ関連市場の最新動向	113
(1) コンデンサ関連市場概況と動向	113
(2) コンデンサ関連世界市場推移予測／構成比率推移（2007～17 年度）	114
(3) 関連市場別コンデンサ市場推移予測／構成比率推移（2007～17 年度）	115
2. コンデンサ関連市場の動向と展望	116
(1) スマートフォン市場の動向と展望	116
・スマートフォン世界・国内市場推移予測／シェア	117
(2) 携帯電話市場の動向と展望	119
・携帯電話世界・国内市場推移予測／シェア	120
(3) タブレット端末市場の動向と展望	122
・タブレット端末世界・国内市場推移予測／シェア	123
(4) ノートブック市場の動向と展望	125
・ノートブック世界・国内市場推移予測／シェア	126
(5) パソコン市場の動向と展望	128
・パソコン世界・国内市場推移予測／シェア	129
(6) デジタルカメラ市場の動向と展望	131
・デジタルカメラ世界・国内市場推移予測／シェア	132

(7) 薄型テレビ市場の動向と展望	134
・薄型テレビ世界・国内市場推移予測／シェア	135
(8) 自動車市場の動向と展望	137
・自動車（四輪車）世界・国内市場推移予測／シェア	138
(9) カーナビゲーション市場の動向と展望	139
・カーナビゲーション世界・国内市場推移予測／シェア	141
(10) 太陽光発電用パワーコンディショナーの動向と展望	143
・パワーコンディショナー市場推移予測／シェア	144
(11) LED 照明市場の動向と展望	145
・LED 照明世界・国内市場推移予測／シェア	146

第IV章 コンデンサ関連部材市場の動向と展望

1. コンデンサ別関連部材の概要と動向	147
（アルミ電解／積層セラミック／タンタル電解／フィルム／電気二重層 各コンデンサ）	
2. セラミックコンデンサ関連部材の動向と展望	149
(1) 酸化チタン (TiO ₂) の市場概況と動向	149
①酸化チタン国内市場の動向と展望	149
②酸化チタン世界市場の動向と展望	150
(2) 酸化チタンメーカー別生産能力（表）	151
①コンデンサ用酸化チタン国内出荷量推移予測（2001～16年度）	151
②酸化チタン出荷量世界／国内メーカーシェア（2015年度）	152
③チタン酸バリウム国内メーカーシェア（2014年度）	153
(3) 炭酸バリウム (BaCO ₃) の市場概況と動向	154
①コンデンサ用炭酸バリウム国内出荷量推移予測（2001～16年度）	156
②炭酸バリウム国内生産量・輸入量推移表（2003～16年度）	156
3. アルミ電解コンデンサ関連部材の動向と展望	157
(1) アルミ箔 (Al) の市場概況と動向	157
①コンデンサ用アルミ箔国内出荷量推移予測（2001～16年度）	158
②コンデンサ用アルミ箔メーカーシェア（2015年度）	158
③コンデンサ用アルミ箔主要メーカー出荷金額推移予測（2007～16年度）	159
4. タンタルコンデンサ関連部材の動向と展望	160
(1) タンタル (Ta) の市場概況と動向	160
①コンデンサ用タンタル国内出荷量推移予測（2001～16年）	161
②コンデンサ用タンタル国内需給量推移表（2003～16年）	161
5. 電気二重層コンデンサ関連部材の動向と展望	162
(1) 電気二重層コンデンサ部材の市場概況	163
①電気二重層コンデンサ電極材世界市場推移予測／シェア	163
②電気二重層コンデンサ電解液世界市場推移予測／シェア	164
③電気二重層コンデンサセパレータ世界市場予測／シェア	165
6. 有力材料メーカー・研究機関の動向	166

第V章 コンデンサメーカーの動向と展望

1. 国内コンデンサメーカーの動向と展望（2014～19年度）	167
(1) NEC トーキン 株式会社	167
(2) エルナー 株式会社	169
(3) 岡谷電機産業 株式会社	171
(4) 京セラ 株式会社	173
(5) サン電子工業 株式会社	175
(6) 株式会社 指月電機製作所	176
(7) 神栄キャパシタ 株式会社	178
(8) 双信電機 株式会社	179
(9) 株式会社 タイツウ	181
(10) 太陽誘電 株式会社	182
(11) TDK 株式会社	184
(12) ニチコン 株式会社	186
(13) 日通工エレクトロニクス 株式会社	190
(14) 日本ケミコン 株式会社	191
(15) パナソニック株式会社 AIS 社	195
(16) 日立化成 株式会社	197
(17) 松尾電機 株式会社	198
(18) 株式会社 MARUWA	200
(19) 株式会社 村田製作所	201
(20) ルビコン 株式会社	204
(21) ローム 株式会社	206
2. 海外コンデンサメーカーの動向と展望	207
(1) AVX Corporation (米国)	207
(2) Vishay Intertechnology, Inc. (米国)	208
(3) SAMSUNG ELECTRO-MECHANICS CO., LTD. (韓国)	209
【参考】コンデンサメーカーの戦略(表)	210

主要企業名索引

NEC トーキン 株式会社	167
エルナー 株式会社	169
京セラ 株式会社	173
太陽誘電 株式会社	182
TDK 株式会社	184
ニチコン 株式会社	186
日本ケミコン 株式会社	191
パナソニック株式会社	195
株式会社 村田製作所	201
ルビコン 株式会社	204

序章 コンデンサ注目市場の動向と将来（サンプル）

1. コンデンサ注目市場の動向と展望

(1) コンデンサの概要と用途

① コンデンサの概要

コンデンサ（蓄電器、condensare、英: capacitor）とは、静電容量（キャパシタンス）により電荷（電気エネルギー）を蓄えたり、放出したりする受動素子である。

静電容量の単位はF（ファラド）が使用される。通常使用できるコンデンサは数pF～数万 μ F程度であるが、電気二重層コンデンサなどでは数千Fオーバーの大容量な物もある。両端の端子に印加できる電圧（耐圧）は、2.5V～10kVまでさまざまである。

コンデンサは誘電体によって分離された2枚の電極もしくは電極板によって構成される。

② コンデンサの用途例

・アナログ電子回路での用途

直流の電流を通さないことからカップリング（結合）コンデンサに利用されたり、デカップリング（分離）用のコンデンサに利用される。その他、平滑回路や共振回路、フィルタなどにも利用される。実際の電子回路では抵抗器やコイルとともに用いられる。

・デジタル電子回路での用途

バイパスコンデンサ（パスコン）としての用途が多い。他に水晶発信器やタイミング回路に使用される。主に周波数特性がよいチップセラミックコンデンサが使われる。

・電源回路での用途

アルミ電解コンデンサを中心として、セラミックコンデンサやタンタルコンデンサが使用される。

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

序章 コンデンサ注目市場の動向と将来 (サンプル)

(2) コンデンサの種類と特性

	セラミック	アルミ	タンタル	フィルム	電気二重層
誘電体	チタン酸バリウム系など (BaTiO)	酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	五酸化タンタル (Ta ₂ O ₃)	ポリエステル、ポリプロピレンなど	電気二重層の原理応用
形状	ディップ形 チップ形 樹脂ケース	ネジ端子形 基板自立形 リード端子形 チップ形	チップ形 ディップ形	チップ形 ディップ形 樹脂ケース形	円筒形 (巻線) ラミネート形
長所	小型 無極性	安価 小型大容量	小型で比較的大きな静電容量。半永久的	特性が良い 低電圧から高電圧まで可能	大容量 充放電に優れる。長寿命
短所	湿度、DC 電圧により静電容量変化大きい	高温で短寿命 容量許容差大有極性	有極性 電圧余裕を見て使用する	外形寸法大 静電容量が小	定格電圧が低い。使用湿度が低い
用途	スマートフォン、タブレット、ノートPC 携帯オーディオ、デジカメなど携帯機器 LED 照明、自動車など	電源 (テレビ、オーディオ、コンピュータ、パワーコンディショナ、EV/HEV、工作機械、白モノ家電など)	パソコン ゲーム機 タブレット デジカメなど	電源 (テレビ、オーディオ、コンピュータ、パワーコンディショナ、EV/HEV、工作機械、製造装置など)	複写機、UPS、建設機械、自動車、新エネルギー (風力、太陽光発電など)

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

第 I 章 コンデンサ市場の動向と展望（サンプル）

1. コンデンサ世界市場の現状と展望

(1) コンデンサ世界市場規模と動向

弊社予想によると、2015 年度の主要コンデンサ世界市場は、数量ベースで 2 兆 3,177 億個、金額ベースで 1 兆 7,660 億円となった（2014 年度は 1 兆 6,965 億円）。

電子部品の世界需要は底固い。円高、原材料高騰に加えて、サブプライムローン（信用度の低い個人向け住宅融資）問題に端を発した米国の減速や金融不安の影響はほとんどなくなり、回復に向かっている。ただ、欧州などの政情不安や財政危機の影響は否めない。

原材料が下落する一方で、部品の販売価格下落も進んでいる。特に下落幅が大きいのが、コンデンサや抵抗器などの受動部品である。セラミックコンデンサは、セットメーカーからの値下げ圧力が強まったことに加え、国内外の競争激化により販売価格は下がっている。

メーカー各社が増産の投資を進めてきたところに、韓国、台湾などのアジアメーカーの攻勢もあって、低価格化が進行している。今後も数量ベースに比例した金額ベースでの伸びは期待できない。

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

コンデンサ世界市場推移予測

（単位：億個）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
セラミック					
（内 積層）					
アルミ電解					
タンタル電解					
フィルム					
電気二重層					
※ 合計					

※ その他コンデンサを含む

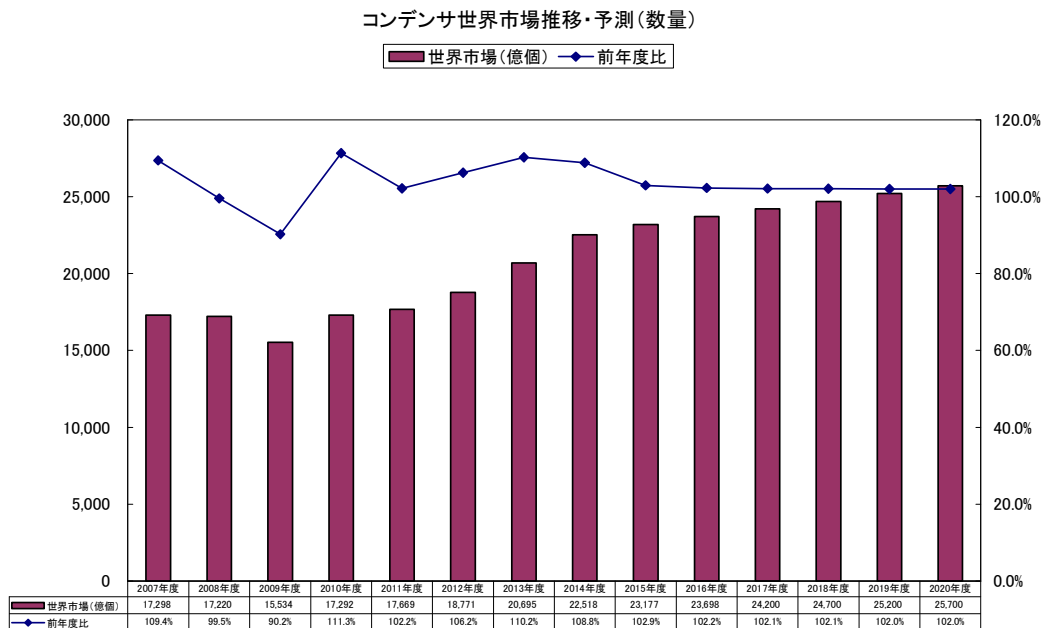
（単位：億円）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
セラミック					
（内 積層）					
アルミ電解					
タンタル電解					
フィルム					
電気二重層					
※ 合計					

※ その他コンデンサを含む

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

①コンデンサ世界市場推移・予測（数量）サンプル



※ 日本エコノミックセンター予測

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

第Ⅱ章 コンデンサ別の市場動向と展望（サンプル）

1. 積層セラミックコンデンサの動向と展望

(1) 積層セラミックコンデンサの概要と動向

① 積層セラミックコンデンサ（EDLC）の概要

セラミックコンデンサは、電極間の誘電体として使用するチタン酸バリウム（ BaTiO_3 ）や酸化チタン（ TiO_2 ）などによって、積層型、単板型の構造を取っている。そのうち積層セラミックコンデンサ（MLCC）は、等価直列抵抗（ESR）が低いほか高周波特性に優れている。液晶テレビやスマートフォンなど多くの電子機器に搭載され、電気を蓄えるほか、ノイズ除去に機能している、

また自動車や民生機器などの省スペース化や小型化に対応するため、コンデンサ自体の小型化が求められる。「0402」（ $0.4\text{mm} \times 0.2\text{mm}$ ）サイズの生産が増加するなかで、「0201」サイズの実用化に向けた取り組みも始まっている。今後もより小さな容積に、大きな静電容量を搭載する技術開発が継続する。

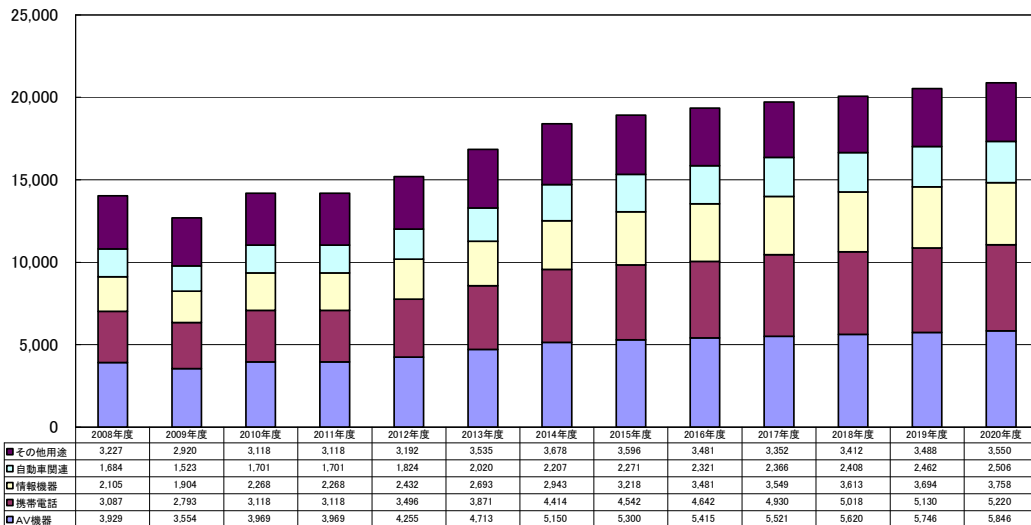
デジタルAV機器などの高性能・小型化に応じた新たなコンデンサの研究開発も進んでいる。その場合、セラミック誘電体の薄膜化技術や多層化技術によって、誘電体層を薄くして多く積むことで、さらに容量を大きくすることができる。

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

(4) 用途別世界市場推移予測／構成比率推移 (2008～20年度)

積層コンデンサ用途別世界市場推移予測 (単位:億個)

■AV機器 ■携帯電話 □情報機器 □自動車関連 ■その他用途



※ 携帯電話は、スマートフォンを含む

※ サンプルのため、以下の棒グラフを省略

第Ⅲ章 コンデンサ関連市場の動向と展望（サンプル）

1. コンデンサ関連市場の最新動向

(1) コンデンサ関連市場概況と動向

①スマートフォンの市場概況

スマートフォン（高性能携帯電話）が世界で普及し続けている。2015年度の世界出荷台数が14億5,700万台となった。新興国がけん引役となって3年で倍増。韓国サムスン電子と米アップルが「2強」の座を守る一方で、3位は華為技術（中）である。価格やブランドで特徴を出せなかったメーカーには逆風が吹いている。4位にレノボ・グループ（中）、5位に小米（中）どとなっている。14年に世界出荷台数は、12億4,500万台となった。従来型を含む携帯電話全体の出荷台数は、19%増の18億6,000万台となった。全体に占めるスマートフォンの割合は前年より11ポイント高い約55%となって3年続けて5割を突破している。

②タブレット型端末の市場概況

2015年度の世界タブレット端末出荷予想台数は、47.6%増の244,500万台で前年同期比117.2%増となって過去最高を記録し続けている。世界市場では、アップルが従来の製品に加えて、iPadAir（アイパットエア）など出荷台数が前半期は好調に推移したが、後半に減少へと転じた。2位はサムスン電子である。アンドロイドとウィンドウズ8（OSベース）の端末を展開していたが、アップル同様年後半には減少に転じ、シェアも昨年同期より約3ポイント減少、約14%となった。3位のレボノは、コスト競争力を活かして、ポイントを増加し約5%となった。4位は台湾のエイエス、ポイントを減少して約5%となった。

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

第IV章 コンデンサ関連部材市場の動向と展望（サンプル）

1. コンデンサ別関連部材の概要と動向

(1) アルミ電解コンデンサ（AEC）

同コンデンサは、誘電体としてアルミ箔を使用する。容量値が $1\mu\text{F}$ ～ $10000\mu\text{F}$ の範囲で最も多く用いられている。用途も電源平滑、電源デカップリング、アナログ回路全般と広範である。同じアルミ電解コンデンサでも、各メーカーは用途別に多くの種類の製品を用意している。また、用途別に最適なコンデンサを容易に検索できるようになっている。

安価で大容量を得られることを特徴としているアルミ電解コンデンサは、特に大型品での新製品が相次いで開発されている。ねじ端子型、ラグ端子型といった大型品は、太陽光、風力発電におけるパワーコンディショナーにおけるキーデバイスの一つである。平滑回路でも使用では、特に高圧化向けの技術開発が活発で、450V 定格以上の高信頼性、長寿命のアルミ電解コンデンサのラインアップが充実している。

(2) 積層セラミックコンデンサ（MLCC）

同コンデンサは、誘電体としてセラミック（高温で焼結させたチタン酸バリウム系、酸化チタン系）を用い、それと電極を交互に重ねる構造によって所用の容量値を得るというものである。その特徴は、小型化（チップ型）が可能であること、比較的定格電圧が高いこと、ESRが小さいこと、総合インピーダンス特性が小さいことである。 1pF の微小容量のものから $10\mu\text{F}$ 程度のものまでが製品化されている。

※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略

第V章 コンデンサメーカーの動向と展望（サンプル）

1. 国内コンデンサメーカーの動向と展望

〇〇〇〇 株式会社	
本店	※ サンプルのため、以下の掲載内容を省略
会社概要	
生産拠点 《国内》	
《海外》	
担当/販売	

《販売数量・金額》

	販 売 実 績			
	数 量 (万個)	対前年比 (%)	金 額 (百万円)	対前年比 (%)
2014 年度				
2015 年度				
2016 年度(見込)				
2017 年度(予想)				
2018 年度(予想)				
2019 年度(予想)				

《分類別販売数量・金額》

(単位:百万個/百万円)

		2015 年度		2016 年度(見込)		2017 年度(予想)	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
固 定 コ ン デ ン サ	アルミ電解						
	タンタル電解	3,010					
	導電性高分子 タンタル	780					
	金属化有機フィルム						
	有機フィルム						
	セラミック						
	マイカ						
	電気二重層	145					
	その他固定	165					
可 変	トリマ						
	その他可変						

※ 以上、日本エコノミックセンター推定を含む

2017 年版
コンデンサ市場・部材の実態と将来展望

発行: 2016年10月21日 第1版
定価: 本体価格70,000円+消費税
発行人: 石澤 宜之
編集: 株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部
発行所: 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-11-5 3F
株式会社 日本エコノミックセンター
JAPAN ECONOMIC CENTER CO.,LTD
TEL :03-3808-0611(代)
FAX:03-3808-0617
URL:<http://www.j-economic.co.jp>
E-mail:mail@j-economic.co.jp

- 《禁無断コピー・転載》 万一、乱丁や落丁の場合はお取り替え致します。

Copyright (C) 2016 Japan Economic Center, Co., LTD.

Printed in Japan 2016

ISBN978-4-907908-64-5 C3060 ¥70000E

△▼△▼ 主要調査レポートご案内(最新版) ▼▲▼▲

～ 市場予測・将来展望シリーズ - 創エネ・蓄エネ・省エネ関連 ～ 好評発売中!

※ 価格は、すべて税抜きです。

新刊 2017 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望 ～ コンデンサ市場実態/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年10月刊
2016 スマートハウス市場の実態と将来展望 ～ スマートハウス市場実態/予測・HEMS・関連機器	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年9月刊
2016 リチウムイオン電池市場の実態と将来展望 ～ リチウム二次電池市場実態/予測・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年8月刊
2016 スマートグリッド市場の実態と将来展望 ～ スマートグリッド市場実態/予測・構成市場/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年7月刊
2016 EMC・ノイズ対策市場の実態と将来展望 ～ EMCノイズ対策市場実態/予測・関連技術・応用製品	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年6月刊
2016 スマートコミュニティ市場の実態と将来展望 ～ スマートコミュニティ市場予測・関連市場/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年5月刊
2016 蓄電池・キャパシタ市場実態と将来展望 ～ 蓄電デバイス市場実態/予測・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年4月刊
2016 HEMS市場・関連機器の実態と将来展望 ～ HEMS・BEMS市場実態/予測・周辺機器・デバイス	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年3月刊
2016 車載用・産業用蓄電池市場の実態と将来展望 ～ 大容量(二次電池・キャパシタ)市場実態予測・部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年2月刊
2016 太陽光発電市場・技術の実態と将来展望 ～ 地産地消・太陽光発電市場実態/予測・関連部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年1月刊
2016 二次電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代・二次電池市場/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年12月刊
2016 燃料電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 水素社会・燃料電池市場実態/予測・燃料電池車	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年11月刊
2015 次世代自動車市場・技術の実態と将来展望 ～ 自動運転車・環境対応車市場実態/予測・インフラ・電池	B5判・CD-ROM 220頁 ¥70,000～¥110,000 2015年9月刊

各調査レポートのお問い合わせ・お申し込みは

創業 50 周年 (Since 1966)

企画・市場調査・出版・資産設計

株式会社 日本エコノミックセンター

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目11番5号 日本橋吉泉ビル3F

△▼△▼ 主要調査レポートご案内(昨年度) ▼▲▼▲

～ 市場予測・将来展望シリーズ - 創エネ・蓄エネ・省エネ関連 ～ 好評発売中!

※ 価格は、すべて税抜きです。

2016 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望 ～ コンデンサ市場実態/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年10月刊
2015 次世代自動車市場・技術の実態と将来展望 ～ 自動運転車・環境対応車市場実態/予測・インフラ・電池	B5判・CD-ROM 220頁 ¥70,000～¥110,000 2015年9月刊
2015 リチウムイオン電池市場の実態と将来展望 ～ リチウムイオン電池市場/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年8月刊
2015 電力自由化市場・関連技術の実態と将来展望 ～ 電力自由化市場予測・発電/送・配電/蓄電・住宅市場	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2015年7月刊
2015 民生機器用蓄電池市場の実態と将来展望 ～ 小容量(二次電池・キャパシタ)市場実態/予測・部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年6月刊
2015 水素燃料市場・関連技術の実態と将来展望 ～ 水素エネルギー市場実態/予測・燃料電池/車・蓄電池	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2015年5月刊
2015 HEMS市場・関連機器の実態と将来展望 ～ HEMS市場実態/予測・関連機器/部材・BEMS/CEMS	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年4月刊
2015 再生可能エネルギー市場の実態と将来展望 ～ 太陽光・風力・中小水力・バイオマス・地熱各市場実態	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年3月刊
2015 車載用・産業用蓄電池市場の実態と将来展望 ～ 大容量(二次電池・キャパシタ)市場実態予測・部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年2月刊
2015 太陽光発電市場・技術の実態と将来展望 ～ 電力自由化・太陽光発電市場実態/予測・関連部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年1月刊
2015 二次電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代・二次電池市場/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2014年12月刊
2015 燃料電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 水素社会・燃料電池市場実態/予測・燃料電池車	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2014年11月刊
2014 次世代自動車市場・技術の実態と将来展望 ～ 環境対応車市場実態/予測・インフラ・車載用蓄電池	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2014年9月刊

各調査レポートのお問い合わせ・お申し込みは

創業50周年 (Since 1966)

企画・市場調査・出版・資産設計

株式会社 日本エコノミックセンター

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目11番5号 日本橋吉泉ビル3F

新刊 2017 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望（第一版）

～ コンデンサ市場実態/予測・関連技術/部材・応用製品 ～

FAX 購入申込書

申込日：201 年 月 日

※ 以下の定価はすべて税抜き価格で、別途消費税が加算されます。

購入される商品の口にチェックして下さい

- B5 判+CD タイプ(PDF ファイル) 定価:90,000 円
- プレミアム CD(PDF+Excel ファイル) 定価:90,000 円
- B5 判 210 頁 定価:70,000 円
- CD タイプ 定価:70,000 円
- B5 判+プレミアム CD 定価:110,000 円

※ 上記以外に、A4 タイプ、章単位 CD などニーズに対応した商品を提供しております

☆ 企画書・目次・サンプル(PDF)は、HP <http://www.j-economic.co.jp> でご確認下さい。

— お問い合わせ、お申し込みは、Tel (03-3808-0611) / Fax (03-3808-0617) まで

※ 下記の担当部署までお気軽に連絡して下さい。(平日:9:15 ~ 16:45)

御社名		TEL :
所在地	〒	FAX :
部署名		御名前
御役職		
通信欄		Mail

※ ご請求書は、資料発送時に同封致します。ご記入頂きました個人情報は、新刊案内（メール含む）のご案内をさせて頂く場合がございます。お客様の個人情報を第三者に提供する事はございません。ご注文は弊社 HP から注文できます。

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-11-5 日本橋吉泉ビル 3F

株式会社 日本エコノミックセンター 市場開発部 / 市場調査部